

肥 料

植物の生育や開花、結実に必要な肥料成分として、チッ素、リン酸、カリの3要素が大切であることはよく知られています。この3要素の役割と生育のどの時期に与えればよいかを知っておくことが大切です。

チッ素（N）肥料

植物体内のたん白質の構成要素として重要で、細胞を作り、茎や葉の組織を作るため、とくに発育期に多く必要とする。

硫 安＝効き方は速いが、流亡しやすいので、追肥として、利用する。土が酸性になる。

尿 素＝中性で、害が少なく徐々に植物に吸収され、肥料効果が高い。

油カス＝醗酵させて、固めたり、水肥にして利用。肥効は遅いが長持ち（半月～1カ月）する。リン酸、カリも少量含む。

リン酸（P）肥料

原形質の主な構成成分で細胞の成長や増殖、生活エネルギーを作るのに関係する。根の発育を促進し、発芽を旺盛にし、花や果実を作る。全期間を通じて必要で、とくに花つきをよくする。

過リン酸石灰＝効き方が速く、中性。

熔 成 リ ン 肥＝基肥として利用。リン酸のほかにケイ酸や苦土（マグネシウム）などを含む。酸性土壌や火山灰地で効果が高い。

骨 粉＝油カスと混合で用いる。効果が長持ちする。

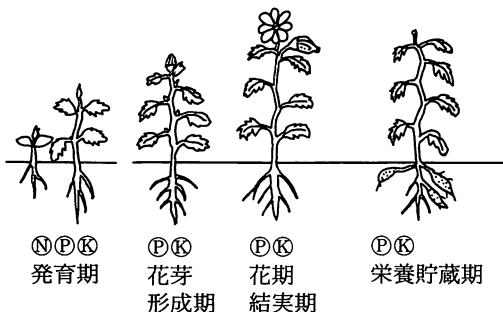
鶏フン＝土中で再醗酵して根をいためるので、植物体から離すか、植付け10～14日前に施す。

カリ（K）肥料

細胞分裂、繊維の生成を助け、植物体を強くし、根の発育や開花結実を促進する。寒さや病気に対する抵抗力も高める。炭水化物の生成と関連があり、球根肥大を促進する。

塩化・硫酸カリ＝酸性で効き方が速い。土壌に吸収されやすいので、基肥、追肥に利用。

草 木 灰＝雨に流されやすいので追肥として施用する。



成長サイクルと施肥（草花の場合）

有機質肥料の成分 (%)

肥料名	チッソ(N)	リンサン(P)	カリ(K)
油カス	5	2	1
魚 粉	9～10	4～6	—
骨 粉	3～4	22～24	—
鶏フン	5	4	2
草木灰	—	2～3	5～6

